



「無駄と我慢」

環境問題が問われる今日この頃、環境に関するセミナーも増え、SOの審査登録を考える企業も年々増えていようです。さらにこの秋から冬にかけて環境庁が発表した地球温暖化防止対策が『ウォームビズ』。夏場の「エココンシャス」ビジネススタイル『クールビズ』は、6月当初はなじみの薄い方も多く、街頭インタビューをしてもよく知らなかったり「クール水」と間違えるサラリーマンの方もいらっしゃったりと、どうなることかと思いきや、終わってみれば経済効果からもエネルギー削減からもどちらもある程度の成果がでたようです。

これに気をよくしてか、秋、冬は室内温度20度程度にし『寒い時には着る』『過度に暖房機器にたよらない』という原点に戻り政府主導でスタートした『ウォームビズ』ではありますが私も大賛成です。昨年まで夏の間はクーラーが利き過ぎで無駄に寒い部屋というのが多くありました。そのため長袖のセーターは必要だし、外気温との差があまりにもあるため、温度差で体調をくずしてしまうということもあったほどです。冬も無駄に気温を上げて気分が悪くなるほど暖かいえ暑い部屋もありましたから、ある程度自分の着る服で調節できるのであれば、その方がいいに違いありません。

「無駄」という点で、思ったことがあります。本当は「無駄」なのに、その「無駄」に気づかず生活していることがけっこうあるものです。その無駄が時に快適だったり

するものですから余計にその「無駄」を正そうとはしないのかもしれませんが。

今年、香川県は水不足でした。節水対策も各家庭で行われました。そんな香川の水事情をインドネシアでの生活が長い知人と話していると、「飲んででも大丈夫な水でお風呂に入ったりシャワーをしたりすることが一番無駄、日本ぐらいよあんなきれいな水で体を洗うのは、飲む水ならまだしもお風呂用の水は大概少しは濁っているわ」と言われました。さらに、彼女は続けます。「蛇口をひねると水がでてくることだってすごいことなんだから・・・」と。反論すらできませんでした。

確かに・・・彼女の言う通りです。世界的感覚でみると無駄なことが日本にはいっぱいあるんでしょう。しかし生まれた時から蛇口をひねれば水が出るのがあたりまえでしたし、さらに濁った水で体を洗うことには抵抗があります。病気も心配です。夏でも冬でも室内温度を多少上げたり下げたりすることには賛同者も多くいますが、地球温暖化防止のため暖房使用禁止というキャンペーンがでると賛同者は極端に減るでしょう。ちょっとの我慢はできても、大きく生活スタイルを変えることは大変難しいものです。

最近インタビューさせていただいた建築業界の方が「これからはローハスの時代。建築一般にはローハスの考えをもとに・・・」といわれていました。私は勉強不足で

つもちゃんの

ドタバタ ラジオ日記

このローハスという言葉はよく知らなかったのです。ローハス(LOHAS)=Lifestyles of Health and Sustainability。環境・自然・健康に優しいライフスタイルを継続可能な形で実践するという考え方、アメリカでは1990年代後半から日本では2002年にはじめて日本経済新聞で紹介されその後、じわじわと共感者もふえ、現在はこのローハスの考えを打ち出した有機食品や健康食品が注目されています。新しい言葉と文化が

どんどん生まれているようですが、よく考えれば「無駄をなくそう！そして昔の日本に戻ろう」という考えになるんでしょうね。だって私の祖父母が生きた時代はローハスそのもの、井戸の水をくみあげ、うちわでばたばた冬は火鉢に食べ物は畑から…。しかし、便利になりすぎた快適になりすぎた生活をどこまで切り替えられるのでしょうか？ちょっと我慢はできたとしても、ですね。

おすすめ 取材日記

「工房 中井」

原型師という職業をご存知でしょうか？美術鑄造などの原型を制作する職人さんのことです。高松市桜町に工房を構える中井一誠さんはその原型師、現在は仏像の原型を主に作ってらっしゃいますが、注文が入れば形あるものならば何でもの・・・とのこと。

平面の図面や写真から立体的な形を作りだすその手はまさに魔法の手！いままで一番大きい作品は高さ16メートルの仏像だとか今後はそれ以上のものを作りたいと意欲的にお話くださいました。

住所 高松市桜町2丁目11番26号

電話 087-834-0064



粘土で形をとり、石膏やプラスチックで面型を作るそうです。



中井一誠さんと奥様のとみ子さん



これは、できあがり品